

農林水産政策白書

ひょうごみどり白書
2022

兵庫県

目 次

はじめに	1
白書作成の趣旨と内容構成	1
「ひょうご農林水産ビジョン 2030」の概要	2
ひょうごの農林水産業の概要	7
第1章 ひょうごの農林水産施策の取組	11
第1節 総括	11
第2節 施策の取組状況ー成果指標の目標に対する進捗ー	19
基本方向1 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開	
1 スマート化による新しい農林水産業の実現	20
2 多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開	21
3 需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化	25
4 木材利用の拡大と資源循環型林業の推進	27
5 豊かな海と持続的な水産業の実現	29
6 農林水産物のブランド力強化と生産者所得の向上	31
7 食の安全を支える生産体制の確保	32
基本方向2 県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出	
8 特色を活かした活力ある地域づくりの推進	33
9 農山漁村の防災・減災対策の推進	35
10 豊かな森づくりの推進	36
基本方向3 「農」の恵みによる健康で豊かな暮らしの充実	
11 食と「農」に親しむ楽農生活の推進	37
12 「農」と多様な分野との連携強化	37
13 県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進	38
第2章 トピックスー「農」をめぐる最近の情勢ー	39
特集1 資材・燃料等高騰に対応した農林水産施策の展開	40
特集2 スマート農業技術の導入の推進	42
特集3 「いきいき農地バンク方式」の取組による農地の集積・集約化	43
特集4 神戸ビーフの輸出量が過去最高に！	44
特集5 重大家畜伝染病の発生・まん延防止対策の徹底	45
特集6 増加する大径材の用途開発と利用促進	46
特集7 第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会～御食国ひょうご～の開催	47
特集8 第3期ニホンジカ管理計画に基づく個体数管理の推進	48

特集9	兵庫五国が誇る自慢の食材の認知度向上	49
特集10	本県農林水産業の未来を切り拓く！	50
特集11	ひょうごの「農」の元気な活動（表彰事例の紹介）	52

参考	57
-----------	-----------

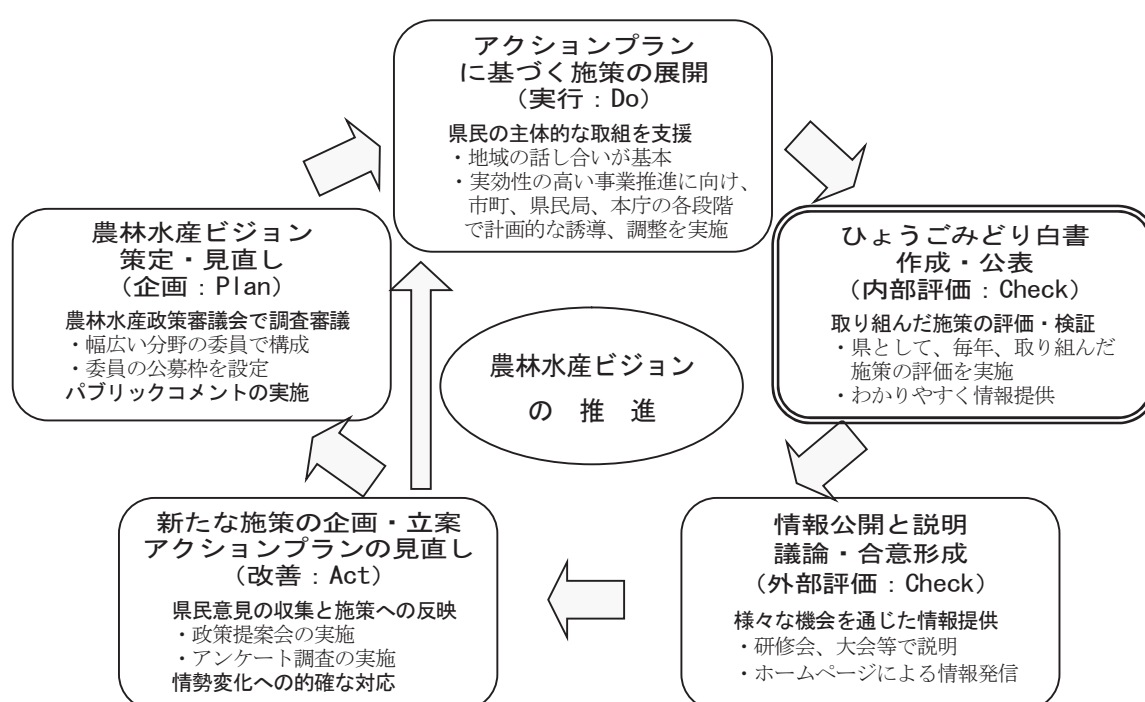
農林水産技術の開発・普及体制	58
参考付表	60

はじめに

白書作成の趣旨

私たちの「いのち」と「暮らし」を支える基盤である農林水産業・農山漁村の持続的な発展を図るため、本県では、農林水産行政推進の基本となる、計画的かつ総合的な指針として「ひょうご農林水産ビジョン」を策定し、このなかで、おおむね 10 年後のめざすべき農林水産業・農山漁村の姿と、その実現に向けた施策の目標を掲げ、これに基づいて施策を進めています。

目標達成に向けて各施策を効果的に進めていくためには、Plan（計画）、Do（実行）、Check（点検・評価）、Act（改善）のいわゆる PDCA サイクルを活用し、施策の点検・評価や改善を継続的に実施していくことが重要であり、この「ひょうごみどり白書」は、毎年度、実施している施策が、目標に向けてどのように進んでいるのかを自ら点検・評価し、今後重点化を図らなければならない課題を明確にするとともに、この結果を県民の皆さんにわかりやすく情報提供することを目的として作成しています。



白書の内容構成

第1章 ひょうごの農林水産施策の取組

「ひょうご農林水産ビジョン 2030」に掲げる総括的指標の直近状況と令和3年度における農林水産施策の取組状況や成果指標に関する進捗状況等をまとめています。

第2章 トピックス ―「農」をめぐる最近の情勢―

ひょうご農林水産ビジョン 2030 のめざす姿（御食国ひょうご 令和の挑戦～都市近郊の立地を活かした農林水産業の基幹産業化と五国の持続的発展～）と SDGs は、農林水産業・農山漁村を含め「持続可能な地域づくり」をめざす観点で合致しており、それぞれは 2030 年を目標年に定めている点でも共通しています。

そこで、最近の「農」をめぐる話題の事例の中から、ビジョンのめざす姿の実現と SDGs の達成に向けた取組をトピックスとして紹介します。

「ひょうご農林水産ビジョン 2030」の概要

めざす姿

みけつくに

御食国ひょうご 令和の挑戦

～都市近郊の立地を活かした農林水産業の基幹産業化と五国の持続的発展～

新型コロナウイルスの影響を乗り越え、販売チャネルの多様化を図り経営基盤を強化した経営体が増加しています。また、UJI ターン、二地域居住に対する関心の高まりに各地域が積極的に対応することにより地域が活性化しています。

さらに、SDGs の理解が深まり、都市近郊の立地を活かして実需者や消費者と直接結びついた持続可能な力強い農林水産業が展開されています。近年多発する自然災害への対応として防災・減災対策が進み、農福連携や農泊など「農」と多様な分野との連携による新たな取組が県内に広がり、県民が安心して暮らせる活力ある地域が創出されています。加えて、ひょうごの「農」がもたらす恵みが県民はもとより国内外でも享受され、ひょうごの「農」にかかわるすべての人々の健康で豊かな暮らしに結びついています。

基本方向

■基本方向1 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開

スマート化による効率化、産品毎のブランド力の強化、多様な人材が農業を支え合う地域協働体制の構築、販売チャネルの多様化、海外市場の開拓等により、基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開をめざす。

【農業】

都市近郊の立地を活かし、施設野菜など野菜の生産拡大や、農業の法人化と経営力の強化、企業参入の促進による次代を担う担い手の育成、農地の集積・集約化等を進め、実需と結びついた競争力の高い農業の展開をめざす。

【畜産業】

但馬牛繁殖雌牛の増頭による但馬牛・神戸ビーフの生産体制の強化、需要に応じた生乳生産の増産等を進め、安全・高品質な畜産物の生産強化をめざす。

【林業】

人工林の適正な経営管理のもと、県産木材の利用促進を図り、植林・保育・伐採・利用の林業サイクルが継続する資源循環型林業の構築をめざす。

【水産業】

適正な栄養塩管理等による豊かで美しい海の再生、経営感覚に優れ意欲ある漁業者等の育成による収益性の高い力強い漁業の確立をめざす。

■基本方向2 県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出

地域ぐるみの協働活動や地域資源の活用などによる中山間地域の農村コミュニティの活性化や、災害に強い安全・安心な農山漁村の暮らしの確保、防災機能・公益的機能など森林の機能向上等により、県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出をめざす。

■基本方向3 「農」の恵みによる健康で豊かな暮らしの充実

「楽農生活」のさらなる推進や農福連携等多様な分野との連携強化により、ひょうご五国の特徴ある多自然地域や農林水産業の維持・活性化、県産農林水産物の安全・安心で安定的な供給体制の強化により、「農」の恵みによる県民(生活者)の健康で豊かな暮らしの充実をめざす。

ビジョンの施策体系

【めざす姿】【基本方向】

【推進項目】

【推進方策】

御食国ひょうご 令和の挑戦 都市近郊の立地を活かした農林水産業の基幹産業化と五国の持続的発展

Ⅰ 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開

- 1 スマート化による新しい農林水産業の実現
- 2 多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開
- 3 需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化
- 4 木材利用の拡大と資源循環型林業の推進
- 5 豊かな海と持続的な水産業の実現
- 6 農林水産物のブランド力強化と生産者所得の向上
- 7 食の安全を支える生産体制の確保

- (1) スマート農業の展開 (2) スマート畜産業の展開
- (3) スマート林業の展開 (4) スマート水産業の展開

- (1) 本県の強みを活かし需要と直結した生産の新展開
- (2) 次代を担う経営力の高い担い手の育成
- (3) 農地利用の最適化と効率的な生産基盤の確立
- (4) 地域の多様な人材が支え合う持続可能な地域協働体制の確立
- (5) 環境創造型農業（人と環境にやさしい農業）の取組拡大

- (1) ひょうごの畜産を支える多様な担い手の確保
- (2) 但馬牛の増頭と但馬牛・神戸ビーフ生産拡大
- (3) 牛乳・乳製品の生産基盤強化
- (4) 高品質な鶏卵・鶏肉・豚肉の安定生産
- (5) 高品質な堆肥の生産と広域流通・耕畜連携の推進

- (1) 県産木材の利用拡大と加工流通体制の強化
- (2) 森林資源の循環利用と林業経営の効率化

- (1) 豊かで美しい海の再生と水産資源の適正管理
- (2) 漁業の担い手確保と経営力の強化

- (1) 更なるブランド戦略の展開
- (2) フードチェーンづくりと高付加価値化の支援
- (3) 新たな価値の創出

- (1) 安全で適正な農薬使用の推進
- (2) 生産段階における適正な生産工程・衛生管理等の導入拡大
- (3) 畜産農場における HACCP 対応や畜産 GAP の取得の推進
- (4) 口蹄疫や豚熱、鳥インフルエンザ等重大家畜伝染病の発生・まん延防止
- (5) 安全安心な二枚貝の流通に向けた貝毒監視体制の整備

Ⅱ 県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出

- 8 特色を活かした活力ある地域づくりの推進
- 9 農山漁村の防災・減災対策の推進
- 10 豊かな森づくりの推進

- (1) 中山間地域における地域活性化の推進
- (2) 野生動物の管理や被害対策の推進
- (3) 農村地域の多面的機能発揮の促進
- (4) 都市農業を核とした地域づくりの推進
- (5) バイオマスの活用を通じた地域活性化の推進
- (6) 内水面における水産資源の維持と地域活性化の推進

- (1) ため池災害の未然防止とため池避難対策
- (2) 山地防災・土砂災害対策の推進
- (3) 漁港の耐震化と津波・高潮防災対策の推進

- (1) 森林の適正管理の徹底による公益的機能の維持・向上
- (2) 森林の防災機能の強化を図る「災害に強い森づくり」の推進
- (3) 森林病虫害被害対策の推進と保安林制度等の適正運用
- (4) 県民総参加による森づくりの推進

Ⅲ 「農」の恵みによる健康で豊かな暮らしの充実

- 11 食と「農」に親しむ楽農生活の推進
- 12 「農」と多様な分野との連携強化
- 13 県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進

- (1) 令和の時代のライフスタイルの提案
- (2) 楽農生活に誘い、定着を図る仕組みづくり
- (3) 楽農生活をサポートする体制づくり

- (1) 農福連携の取組強化
- (2) 観光分野との連携強化

- (1) 卸売市場を通じた安定供給の確保
- (2) 県産県消の推進
- (3) 食品に対する消費者の信頼の確保

施策推進状況の評価方法

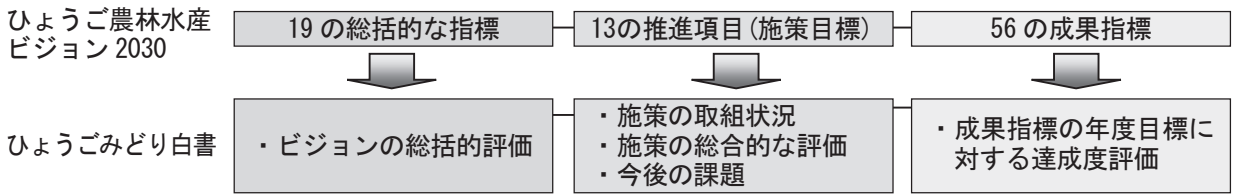
「ひょうご農林水産ビジョン 2030」に掲げる 13 の推進項目ごとに 56 の成果指標を設定しており、施策目標の実現に向けた取組を評価するために、各指標の年度目標に対する達成度を次の基準で評価します。

〔成果指標の評価基準〕

評価	評価基準	
◎	達成率が 100%以上	(年度目標を達成)
○	達成率が 90%以上 100%未満	(年度目標をおおむね達成)
△	達成率が 80%以上 90%未満	(年度目標を下回る)
▲	達成率が 80%未満	(年度目標を大きく下回る)
※	現時点で達成度の評価が困難	

また、施策目標に対する総合的な評価を行うため、成果指標の評価結果に基づく施策進捗状況の判断基準を参考に、天候等の外的要因も加味して、数値評価になじまない内容も含めた施策の総合的な評価を行います。そのうえで、今後、取り組むべき課題を整理します。

さらに、ビジョンに基づく活動成果として、本県農林水産業の動きを推し測るとともに、めざす姿への到達度を測るため、農業産出額、畜産業産出額、林業・木材産業産出額、漁業産出額等を総合的な指標として設定しています。



成果指標

1 総括的指標

各分野の産業活動を測るため、総括的指標として 19 項目を設定

区分	指標名	令和元年度(起点)	令和7年度(中間目標)	令和12年度(目標)
農業	農産物生産量(千 t)	474	490	494
	うち野菜生産量(千 t)	283	287	290
	うち米・麦・大豆生産量(千 t)	191	193	194
	農業産出額(畜産業を除く)(億円)	940	986	988
	法人経営体数(法人)	610	910	1,170
	優良農地面積(ha)	61,621	61,197	61,136
畜産業	但馬牛繁殖雌牛飼養頭数(頭)	14,060	15,200	16,000
	畜産業産出額(億円)	569	626	651
	法人経営体数(法人)	127	139	149
	1経営体あたりの但馬牛繁殖雌牛飼養頭数(頭)	12.8	16.2	20.0
林業	素材生産量(千 m ³)	443	527	623
	林業・木材産業産出額(億円)	594	602	634
	意欲と能力のある林業経営体(経営体)	29	34	38
水産業	漁船漁業・海面養殖生産量(千 t)	110	115	119
	うち漁船漁業生産量(千 t)	44	46	47
	うち海面養殖生産量(千 t)	66	69	72
	漁業産出額(億円)	485	468	490
	漁業者1人あたりの漁業産出額(千円)	11,516	11,642	12,830
	漁場環境改善面積(ha)	5,467	5,579	5,749

2 施策項目ごとの成果指標

各施策における取組とその成果をよりの確に評価するため、成果指標として 56 項目を設定

区分	指標名	令和元年度(起点)	令和7年度(中間目標)	令和12年度(目標)
基本方向 1	施設園芸における高度な環境制御技術の導入面積(ha)	18.9	41.0	60.0
	土地利用型作物等における主なスマート農業技術利用面積(ha)	959	6,000	12,000
	畜産における主なスマート畜産技術導入経営体数(経営体)	23	51	70
	野菜生産量(t)	282,548	286,600	290,000
	うち施設野菜生産量(t)	21,220	24,400	27,100
	高温に強い水稻品種の導入面積(ha)	2,331	2,900	5,050
	麦・大豆生産量(t)	8,560	9,298	9,917
	うち丹波黒大豆生産量(t)	890	1,466	1,950
	生産緑地面積(ha)	501	501	501
	法人経営体数(法人)	610	910	1,170
	新規就農者数(人)	200	300	300
	集落営農組織化集落数(集落)	1,075	1,300	1,500
	実質化された人・農地プラン策定集落数(集落)	433	1,700	2,500
	担い手への農地集積率(%)	24	48	66
	パイプライン化した農地面積(ha)	12,012	12,700	13,200
	環境創造型農業取組面積(ha)	20,429	22,800	24,600
	うち有機農業取組面積(ha)	1,024	1,500	1,850
	但馬牛繁殖雌牛頭数(頭)	14,060	15,200	16,000

区分	指標名	令和元年度(起点)	令和7年度(中間目標)	令和12年度(目標)
基本方向1	畜産法人経営体数(法人)	127	139	149
	畜産業の新規就農者数(人)	31	30	30
	但馬ビーフ供給頭数(頭)	6,313	7,550	8,400
	うち神戸ビーフ供給頭数(頭)	5,523	6,420	7,200
	生乳生産量(t)	77,376	84,100	96,000
	県認証食品(鶏卵・鶏肉・豚肉)の生産量(t)	23,200	26,600	29,400
	県内製材工場の製品出荷量(千m³)	46	65	92
	木質バイオマス発電用燃料供給量(千m³)	168	211	248
	主伐・再造林面積(ha)	33	50	120
	県内素材生産量(千m³)	443	527	623
	林業の新規就業者数(人)	51	30	30
	森林施業プランナー数(人)	53	59	64
	漁船漁業・海面養殖生産量(千t)	110	115	119
	うち瀬戸内海(千t)	99	103	106
	うち日本海(千t)	11	12	13
	漁場環境改善面積(ha)	5,467	5,579	5,749
	漁業者1人あたり漁業産出額(千円)	11,516	11,642	12,830
	漁業の新規就業者数(人)	43	45	45
	海外市場開拓数(品目毎の累計)(国・地域)	143	200	250
	うち日本酒の海外市場開拓数(国・地域)	21	33	43
	兵庫県産米の輸出量(t)	56	75	100
	神戸ビーフ輸出量(t)	36	44	50
	兵庫県認証食品認証数(品目)	2,172	2,300	2,400
基本方向2	野生鳥獣による農林業被害額(百万円)	493	397	324
	シカ肉のジビエ等利用率(%)	20.4	30.0	35.0
	多面的機能支払交付金の取組面積(ha)	50,171	50,700	51,000
	中山間地域等直接支払交付金の取組面積(ha)	5,317	5,700	5,800
	ため池整備により安全性が向上した箇所数(箇所)	44	232	382
	山地災害危険地区の防災工事の着手済箇所数(箇所)	3,481	3,710	3,900
	主要岸壁の耐震化、津波・高潮防災対策済漁港数(漁港)	6	13	16
	「新ひょうごの森づくり」整備済面積(千ha)	155	182	206
	「災害に強い森づくり」整備済面積(千ha)	35	46	52
	森林病虫害被害(松枯れ)面積(ha)	849	650	500
基本方向3	楽農生活交流人口(万人)	1,108	1,160	1,224
	農福連携取組件数(件)	112	260	300
	ごはん食普及啓発実践活動参加者数(万人)	108	110	112
	県産農林水産物を購入している人の割合(%)	69	70	70
	直売所の利用者数(万人)	2,846	3,580	4,180

ひょうごの農林水産業の概要

1 多彩なひょうごの農林水産業

兵庫県は、「日本の縮図」ともいわれるように、北は日本海、南は瀬戸内海及び太平洋に続く紀伊水道に面し、中央部には中国山地が東西に横たわり、高原、平野、島々など広大で変化に富んだ地形と厳寒、降雪、乾燥、温暖という様々な気候が存在するなど、他府県に類を見ない多様な自然環境を有しています。さらに、歴史的に形成されてきた特色ある固有の風土、文化を有する摂津（神戸・阪神）、播磨、但馬、丹波、淡路といった5つの地域で構成されており、多様な自然環境のもと、それぞれの地域の気候・風土に根ざした多彩な農林水産業が営まれています。

生産量で全国順位の上位を占める農林水産物が多く、主なものとして、農産物では、山田錦（酒米）（1位）、丹波黒（黒大豆）（1位）、たまねぎ、いちじく、カーネーション、また、水産物では、シラス（1位）、ホタルイカ（1位）、ハタハタ（1位）、ズワイガニ（1位）、ノリ養殖、イカナゴ、スズキ類などがあります。

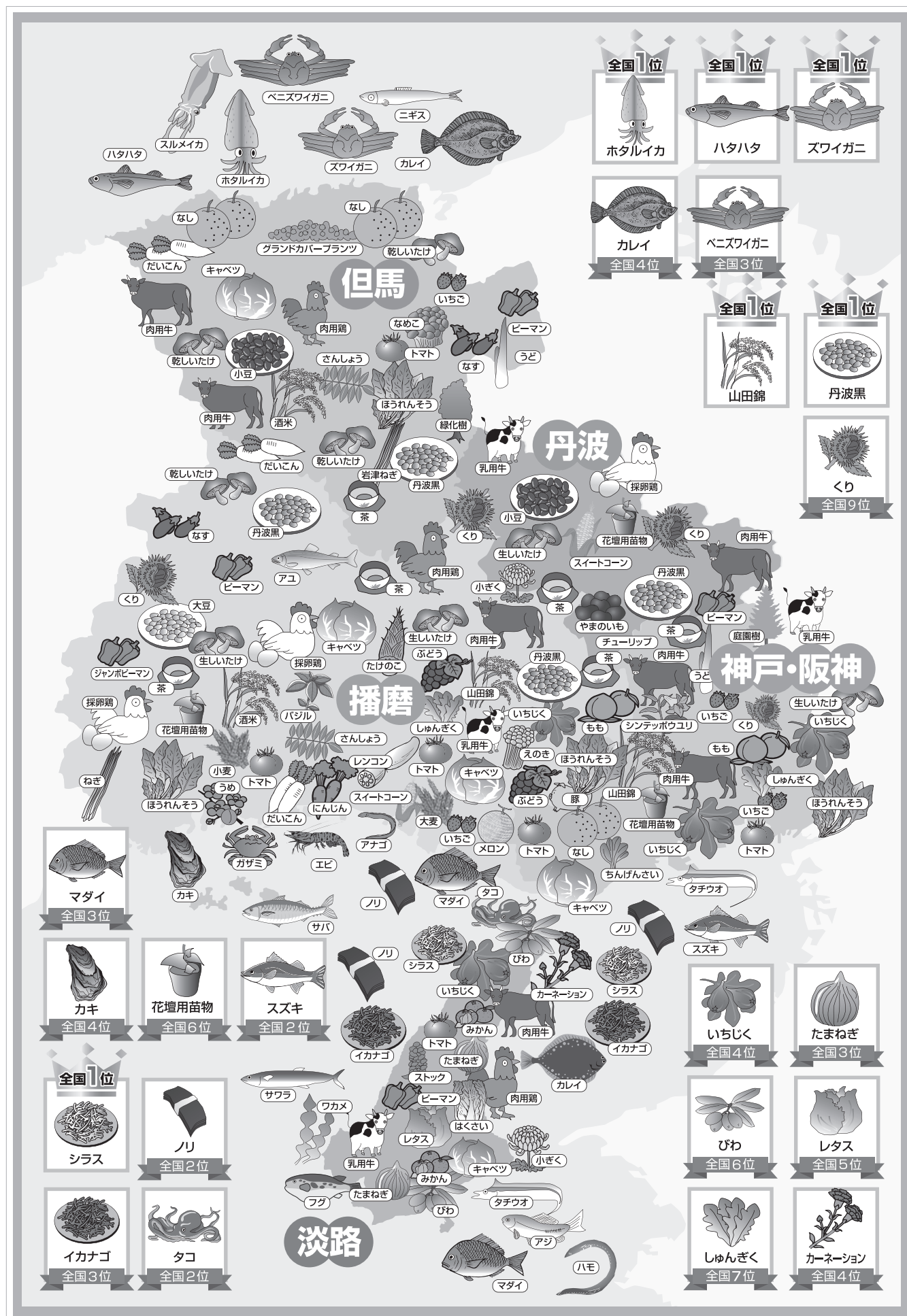
また、神戸ビーフ、明石鯛などは、全国的にも有名なブランドとして知られています。

地域的には淡路地域など農林水産業の盛んな地域を有する一方、人口の多い神戸・阪神地域を有する消費県でもあります。このため、食料自給率（令和2年度）は、カロリーベースでは15%（全国37%）、生産額ベースでは35%（全国67%）と全国よりも低い水準となっています。

〔全国上位を占める主な農林水産物〕

項 目		生産量等	全国シェア	全国順位	県内の主な産地	備 考（資料）
米	山田錦〔酒米〕（出荷量）	15,951 t	57.8%	1	播磨地域	農林水産省「令和3年産米の農産物検査結果（確定値）」※山田錦出荷量は検査数量へ入
豆	丹波黒〔黒大豆〕（収穫量）	1,059 t	41.1%	1	丹波・播磨地域	県農産園芸課調べ（令和3年）
野菜	たまねぎ（収穫量）	100,200 t	9.2%	3	淡路地域	農林水産省「令和3年産野菜生産出荷統計」
	レタス（収穫量）	25,900 t	4.7%	5	淡路地域	〃
	しゅんぎく（収穫量）	1,230 t	4.5%	7	神戸・阪神地域	〃
	はくさい（収穫量）	22,600 t	2.5%	10	淡路地域	〃
	キャベツ（収穫量）	26,200 t	1.8%	11	淡路・神戸地域	〃
果実	いちじく（収穫量）	1,297 t	11.2%	4	神戸・阪神地域	県農産園芸課調べ（令和元年）
	びわ（収穫量）	163 t	5.6%	6	淡路地域	農林水産省「令和3年産果樹生産出荷統計」
	くり（収穫量）	417 t	2.7%	9	丹波・阪神地域	〃
花き	カーネーション（出荷量）	17,400 千本	8.6%	4	淡路地域	農林水産省「令和3年産花き生産出荷統計」
	花壇用苗もの類（出荷量）	24,800 千本	4.5%	6	神戸・播磨地域	〃
畜産物	生乳（生産量）	77,936 t	1.0%	15	淡路・播磨地域	農林水産省「令和3年牛乳乳製品統計」
	肉用牛（飼養頭数）	56,400 頭	2.2%	11	淡路・播磨・但馬地域	農林水産省「令和3年畜産統計」
	鶏卵（生産量）	100,789 t	3.9%	12	播磨地域	農林水産省「令和3年畜産物流通統計」
	ブロイラー（出荷羽数）	12,494 千羽	1.7%	12	但馬地域	農林水産省「令和3年畜産統計」
	はちみつ（生産量）	64 t	2.3%	15	播磨・阪神地域	農林水産省畜産振興課調べ（令和3年）
水産物	シラス（漁獲量）	13,972 t	23.6%	1	瀬戸内海	農林水産省「令和2年漁業・養殖業生産統計」
	イカナゴ（漁獲量）	142 t	2.2%	3	瀬戸内海	〃
	ノリ養殖（収穫量）	63,135 t	22.5%	2	瀬戸内海	〃
	ズワイガニ（漁獲量）	787 t	28.1%	1	日本海	〃
	ハタハタ（漁獲量）	1,783 t	36.7%	1	日本海	〃
	ホタルイカ（漁獲量）	3,377 t	57.6%	1	日本海	県水産漁港課調べ（令和2年）
	タコ類（漁獲量）	1,570 t	4.8%	2	瀬戸内海	農林水産省「令和2年漁業・養殖業生産統計」
	カレイ類（漁獲量）	1,860 t	4.7%	4	日本海・瀬戸内海	〃
	ベニズワイガニ（漁獲量）	1,829 t	14.6%	3	日本海	〃
	マダイ（漁獲量）	1,664 t	11.1%	3	瀬戸内海	〃
	カキ（漁獲量）	9,115 t	5.7%	4	瀬戸内海	〃
	スズキ類（漁獲量）	483 t	8.6%	2	瀬戸内海・日本海	〃

多彩なひょうごの農林水産物マップ



2 農林水産業の概要

●農業の現状

本県の農業産出額は1,478億円（全国22位）で、近畿地方（6府県）の32%を占めており、京阪神都市圏の食料生産基地として重要な地位にあります。

農業産出額の構成比を見ると、米（28%）、野菜（24%）、畜産（40%）で全体の約92%を占めており、全国と比べると米の比率が高くなっています。

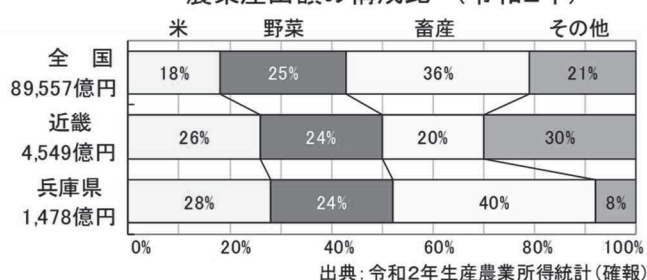
基幹的農業従事者の平均年齢は70.6歳と全国（67.8歳）よりも高く、高齢化が進行しています。

耕地面積は、72,400ha（全国18位）です。そのうち水田面積は66,300ha（全国12位）で、耕地全体に占める割合は全国（54%）と比べると極めて高く、92%となっています。

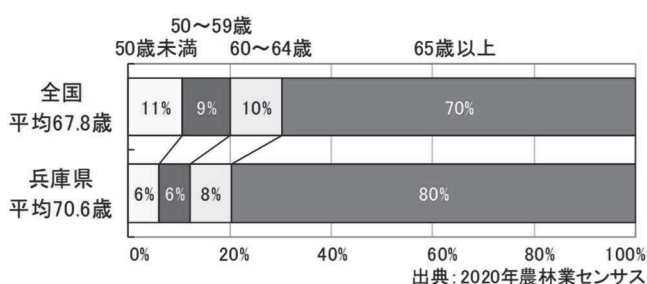
一経営体当たりの経営耕地面積は1.2haで、全国（3.1ha）の半分以下であり、小規模な経営が大半を占めています。

また、降水量の少ない瀬戸内地域や淡路地域を中心に、ため池が数多く築造されており、農業用水の約半分はため池に依存しています。

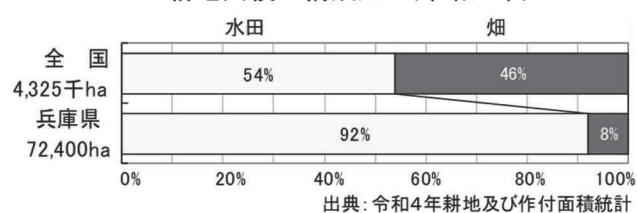
農業産出額の構成比（令和2年）



基幹的農業従事者の年齢構成比（令和2年）



耕地面積の構成比（令和4年）



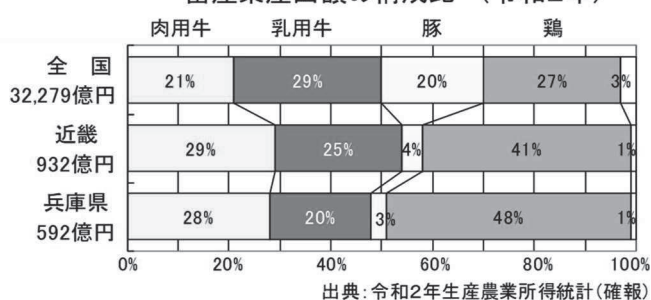
●畜産業の現状

本県の畜産業の産出額は592億円で、近畿地方（6府県）の64%を占めています。家畜別では、肉用牛が167億円、乳用牛が119億円、豚が17億円、鶏が287億円となっています。

家畜の飼育状況は、肉用牛が56,400頭（全国11位）、乳用牛が12,900頭（全国15位）、豚18,200頭（全国38位）、採卵鶏が557万羽（全国14位）、肉用鶏が212万羽（全国14位）となっています。

肉用牛は県下全域で飼育されていますが、そのうち繁殖雌牛は43%が淡路地域で、27%が但馬地域で飼育されています。乳用牛は34%が淡路地域で飼育されており、採卵鶏は86%が播磨地域で、肉用鶏は69%が但馬地域で飼育されています。

畜産業産出額の構成比（令和2年）



●林業の現状

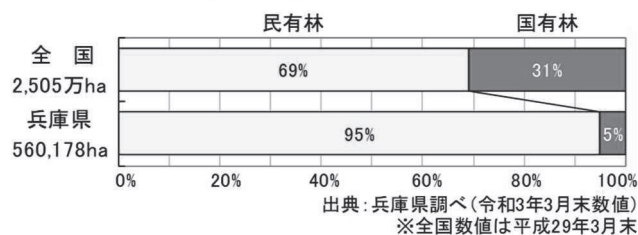
本県の森林面積は560,178ha(全国14位)で、県土に占める森林の割合は全国とほぼ同じ67%ですが、そのうち、個人や集落が所有している民有林は529,857haで、その割合は95%と全国と比べて極めて高い状況です。

また、民有林の42%(221,531ha)をスギ、ヒノキ等の人工林が占めており、そのうち、伐採して利用が可能とされる46年生(10齢級)以上の森林が78%を占めています。

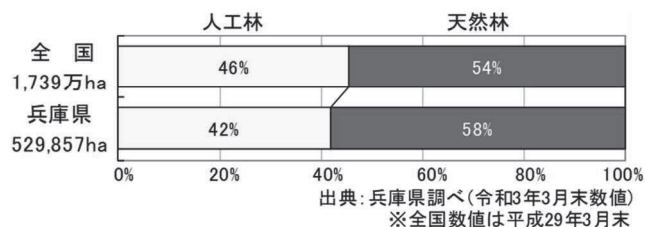
県内林業労働者数は、令和3年度末現在750人で、減少傾向は続くものの、50歳未満の労働者数は、平成5年度の276人から令和3年度には436人へと増加し、年齢構成が若返ってきています。

林業産出額は32.2億円で、このうち木材生産は20.4億円(63%)であり、針葉樹の産出額が95%を占めています。また、栽培きのこ類は8.4億円(26%)で、このうち、生しいたけが93%を占めています。

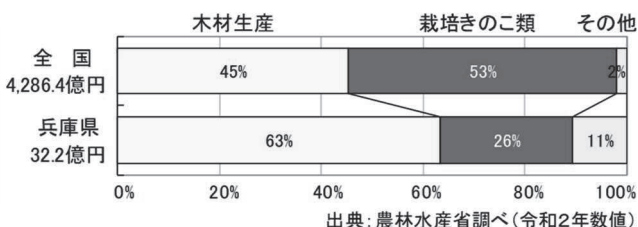
森林の構成比 (令和2年)



民有林の構成比 (令和2年)



林業産出額の構成比 (令和2年)



●水産業の現状

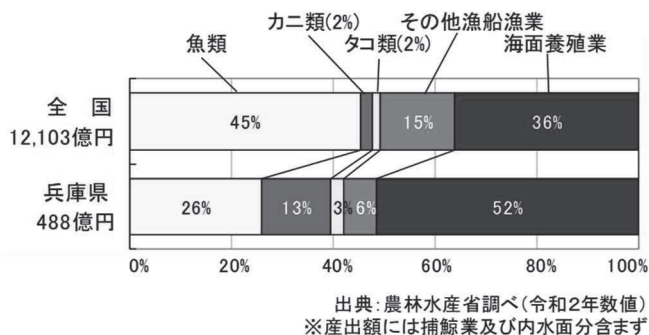
本県の漁業産出額は488億円で、全国6位(シェア4.0%)に位置するとともに、近畿地方(6府県)の71%を占めています。

日本海では、冬季風浪が厳しく、浅海域が少ないことから、大型船による沖合漁業が中心で、ズワイガニ、ホタルイカ、ハタハタ、カレイ類、ベニズワイガニなどが漁獲されています。

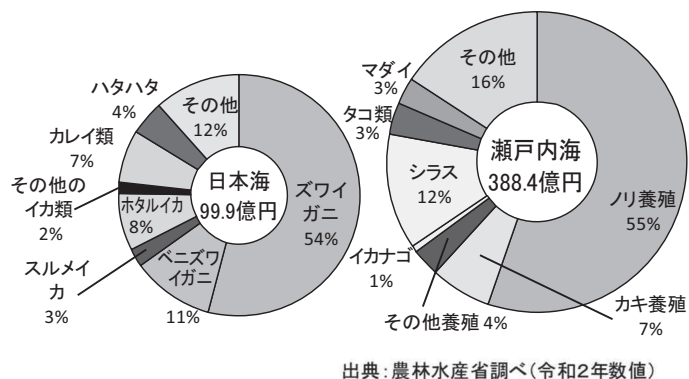
瀬戸内海では、比較的水深が浅く、波浪が穏やかなことから、10t未満の小型船による沿岸漁業が中心となり、タコ、マダイ、シラス、イカナゴなどが漁獲されています。また、ノリやカキ等の養殖業も盛んで、特にノリ養殖の生産額は215億円と瀬戸内海の漁業産出額の55%を占めています。

シラス、ホタルイカ、ズワイガニ、ハタハタが全国1位、タコ、スズキ類、ノリ養殖が同2位など、生産量が全国順位の上位を占める水産物も多く、重要な地域資源として各地域の活性化に寄与しています。

漁業産出額の構成比 (令和2年)



海域別の漁業産出額の構成比(令和2年)



第 1 章

ひょうごの農林水産施策の取組

第 1 節 総括

ひょうご農林水産施策の取組の評価

令和3年3月に策定した新ビジョン「ひょうご農林水産ビジョン2030」（計画期間：令和3～令和12年度）の下、施策・事業の取組状況を評価・検証し、今後、取り組むべき方向を明らかにしました。

ビジョン全体の進捗（総括的な指標）

「ひょうご農林水産ビジョン2030」では、ビジョンに基づく活動成果として、本県農林水産業の動きを推し測るとともに、めざす姿への到達度を測るため、農業産出額、畜産業産出額、林業・木材産業産出額、漁業生産額等、19項目を総括的な指標として設定しています。

その進捗について、起点である令和元年を上回った総括的な指標は、19項目のうち12項目（63%）となりました。総括的指標の個別の進捗は次ページに記載しています。

〔総括的な指標〕

区分	指標名	起点	実績		目標		
		2019 (R元) ①	2021 (R3) ②	②-①	2025 (R7) 中間	2030 (R12) ③	③-①
農業	農産物生産量（千t）	474	454	△20	490	494	+20
	うち野菜生産量（千t）	283	271	△12	287	290	+7
	うち米・麦・大豆生産量（千t）	191	183	△8	193	194	+3
	農業産出額（畜産業を除く）（億円）	940	886※	△54	986	988	+48
	法人経営体数（法人）	610	702	+92	910	1,170	+560
	優良農地面積（ha）	61,621	61,560	△61	61,197	61,136	△485
畜産業	但馬牛繁殖雌牛飼養頭数（頭）	14,060	14,001	△59	15,200	16,000	+1,940
	畜産業産出額（億円）	569	592※	+23	626	651	+82
	法人経営体数（畜産業）	127	137	+10	139	149	+22
	1経営体あたりの但馬牛繁殖雌牛飼養頭数（頭）	12.8	13.7	+0.9	16.2	20.0	+7.2
林業	素材生産量（千m ³ ）	443	527	+84	527	623	+180
	林業・木材産業産出額（億円）	594	562※	△32	602	634	+40
	意欲と能力のある林業経営体（経営体）	29	36	+7	34	38	+9
水産業	漁船漁業・海面養殖生産量（千t）	110	117※	+7	115	119	+9
	うち漁船漁業生産量（千t）	44	41※	△3	46	47	+3
	うち海面養殖生産量（千t）	66	76※	+10	69	72	+6
	漁業産出額（億円）	485	488※	+3	468	490	+5
	漁業者1人あたりの漁業産出額（千円）	11,516	11,902※	+386	11,642	12,830	+1,314
	漁場環境改善面積（ha）	5,467	5,593	+126	5,579	5,749	+282

※令和3年の数値は農林水産統計等が未公表（令和4年12月時点）のため令和2年数値

1 農業分野

農産物生産量は、令和3年は454千tとなり、前年から4千tの微減となっています。

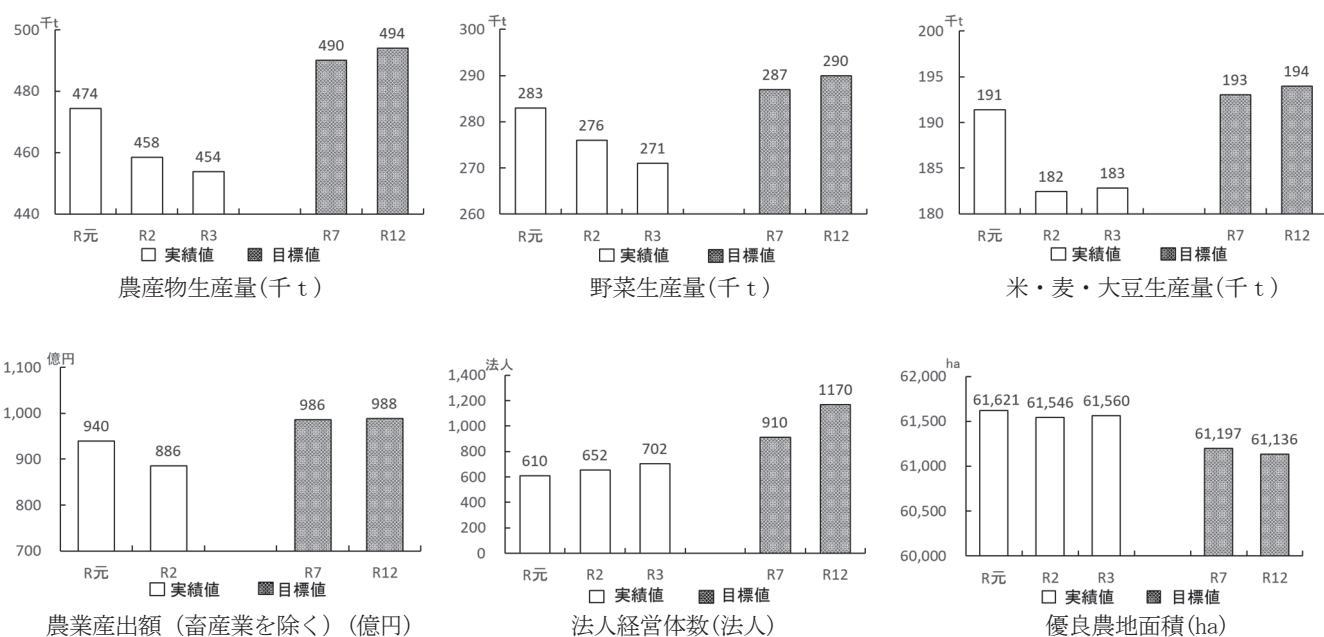
野菜生産量については、前年と比較し、えだまめやブロッコリー等の増産が進んだものの、低温・干ばつなどによる生産量の減少が影響し、全体としてやや減少しました。目標達成に向けては、環境制御機器の導入も含め、機械化による省力化等の取組をさらに進めることが求められます。

米・麦・大豆生産量は、横ばいで推移しており、内訳として、米は増加し、麦・大豆は長雨など天候の影響を受けて減少しました。目標達成に向けては、特に麦・大豆において、基本技術の励行を徹底するほか、国産需要の高まりなど実需者ニーズを踏まえた生産が求められます。

令和2年の農業産出額（畜産業を除く）は、新型コロナウイルスの感染拡大によって外食向け需要が減少したこと等による販売価格の下落により米の産出額が減少したため、886億円と減少しました。目標達成に向けては、県産米の産地競争力の強化、稲作から小麦・大豆や園芸作物への転換の促進、担い手への農地の集積・集約化等のさらなる取組拡大が求められます。

法人経営体数は、増加傾向で推移しており、令和3年度は事業の多角化や原材料の確保等を目的とする農外企業の参入や個別経営体の法人化が進んだこと等により702法人となり、増加しました。目標達成に向けては、収益力や持続可能性の高い経営の実現に向けた取組拡大が求められます。

優良農地面積[※]は、高齢化等による荒廃農地の発生等により減少傾向で推移しており、令和3年は61,560haとなりましたが、優良農地確保のため、今年度見直した農業振興地域整備基本方針に基づき、農地利用と非農業土地利用との調整等を図りつつ、多面的機能支払制度や、基盤整備などの諸施策を通じた農用地確保の取組が求められています。



※優良農地面積：農業振興地域の農用地区域内に存在する農地から荒廃農地を除いた農地の面積

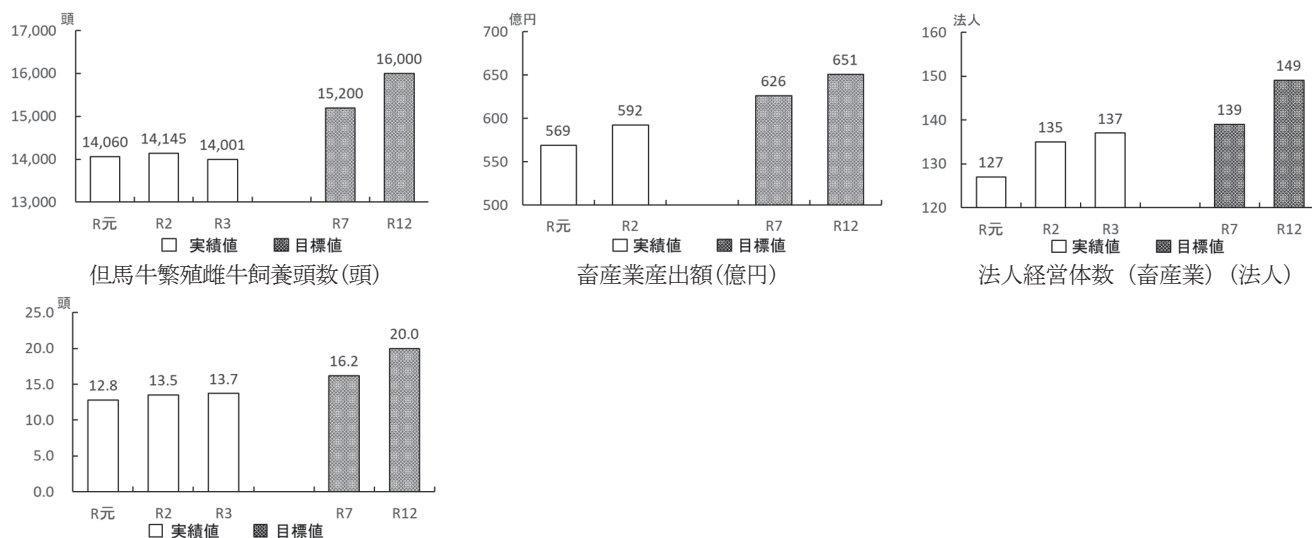
2 畜産業分野

但馬牛繁殖雌牛飼養頭数は、農家の高齢化や、長引くコロナ禍、飼料価格高騰に伴う増頭意欲の減退によって廃業及び減頭のペースが、計画的に規模拡大を行う若手や法人経営による増頭ペースを上回ったことにより、令和3年度は14,001頭と減少しました。目標達成に向けては、繁殖雌牛の増頭への支援の取組拡大が求められます。

畜産業産出額は、卵価の下落によって採卵鶏の産出額が減少したことなどにより平成28年をピークに減少したものの、令和2年は592億円と、鶏卵や鶏肉価格の伸びにより前年より増加しました。目標達成に向けては、畜産物の価格を上げるため需要拡大のさらなる取組が求められます。

畜産業における法人経営体数は、規模拡大に伴う法人化等により令和元年度から増加しており、令和3年度は137法人となりました。目標達成に向けて、今後も法人経営強化や規模拡大を促進する取組が求められます。

1経営体あたりの但馬牛繁殖雌牛飼養頭数は増加傾向で推移しており、令和3年度は牛舎整備の支援により13.7頭に増加しました。目標達成に向けては、さらなる牛舎整備等の支援による繁殖経営の規模拡大が求められます。



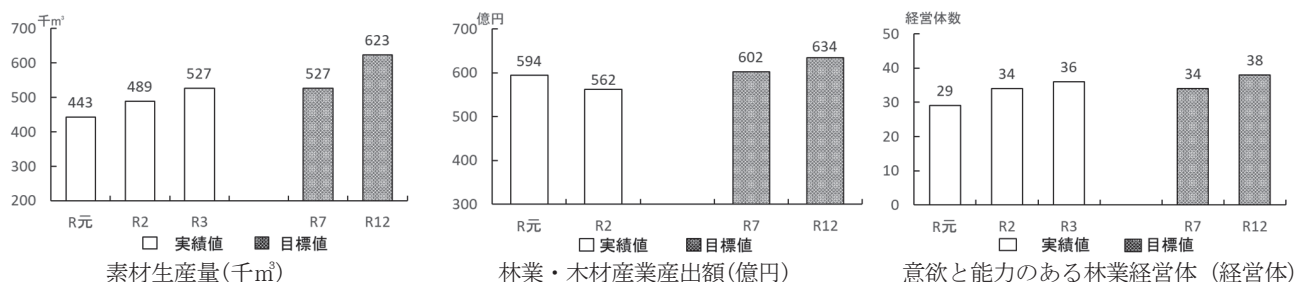
1経営体あたりの但馬牛繁殖雌牛飼養頭数(頭)

3 林業分野

素材生産量は増加傾向で推移しており、令和3年はウッドショック等の影響による県産木材の全体的な需要が増え527千 m^3 と増加しました。目標達成に向けては、低コストかつ安定的な原木供給体制の整備に向けた取組拡大が求められます。

令和2年の林業・木材産業産出額は、新型コロナ禍による住宅需要の減少等により、原木・製材品価格とも市況が前年比で大幅に下落したため562億円となり、減少しました。目標達成に向けては、住宅だけでなく、非住宅における木材利用を促進する取組拡大が求められます。

意欲と能力のある林業経営体[※]は、増加傾向で推移しており、令和3年度は新たに2経営体が登録したことにより36経営体となり、増加しました。目標達成に向けては、県立森林大学校が開催する林業従事者の技術・経営の高度化を図る研修のさらなる充実等による担い手の育成や、意欲と能力のある林業経営体が主たる担い手となる市町における森林経営管理制度[※]の取組拡大が求められます。



※意欲と能力のある林業経営体：森林経営管理法に基づき、低コストな施業に加え、適切な経理処理等が実行可能と、都道府県知事が認め公表する林業経営体。

※森林経営管理制度：手入れの行き届いていない森林について、市町が森林所有者から経営管理の委託を受け、林業経営に適した森林は意欲と能力のある林業経営体に再委託するとともに、林業経営に適さない森林は市町が公的に管理をする制度。

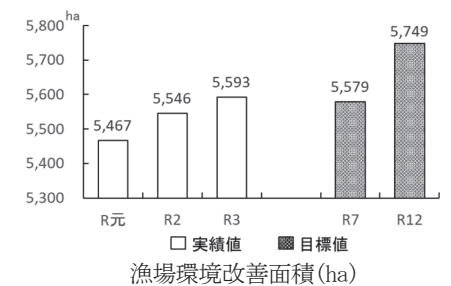
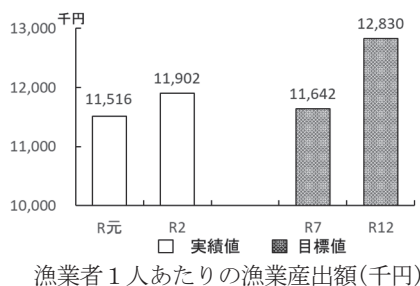
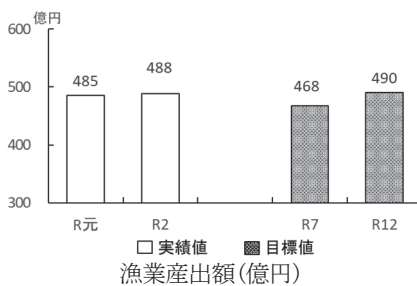
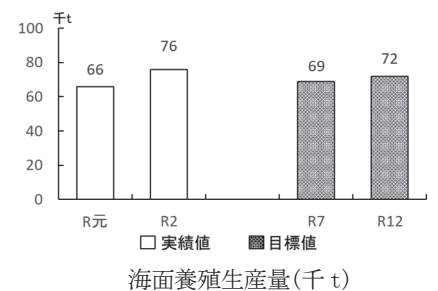
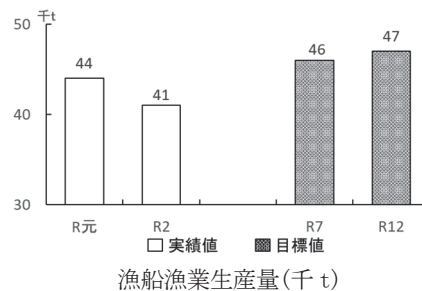
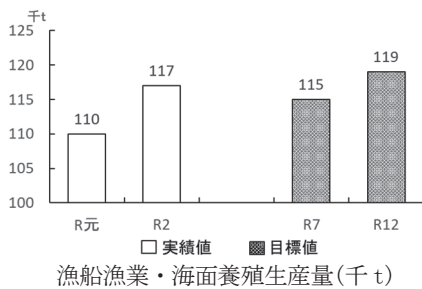
4 水産業分野

漁船漁業・海面養殖生産量は、漁場環境や資源量などの影響を受けて大きく増減することがありますが、令和2年は117千tとなり、令和元年から増加しました。内訳として、令和2年の漁船漁業生産量は、イカナゴの漁獲量が過去最低レベルの142tであったため、41千トンとなり減少しました。海面養殖生産量は、その大部分を占める養殖ノリが順調に生産されたため、76千tとなり増加しました。今後も、漁船漁業・海面養殖生産量の増大に向けて、海域の生産力向上のための栄養塩類の供給や漁場の整備、栽培漁業の推進により豊かな海の再生に取り組むとともに、資源状況等に応じた適切な漁獲等が求められます。

令和2年の漁業産出額は、488億円となり令和元年から3億円増加しました。目標達成に向けては、付加価値の向上や販売促進などの取組拡大が求められます。

令和2年の漁業者1人あたりの漁業産出額は、11,902千円となり、令和元年を上回りました。目標達成に向けては、収益力の向上による持続可能な漁業経営の維持・拡大が求められます。

漁場環境改善面積は、魚礁の設置などの漁場整備事業等により面積の拡大を進めており、令和3年度は事業進捗が早まり5,593haと増加しました。目標の達成に向けて、事業の計画的な推進が求められます。



施策の目標と評価

令和3年度に取り組んできた施策が、「ひょうご農林水産ビジョン 2030」の実現に向け、ねらいどおり推進されているか、ビジョンに示した施策の基本方向ごとに成果指標の評価結果を下表にまとめました。

〔令和3年度の成果指標評価総括表〕

(達成状況：「達成：◎」及び「おおむね達成：○」の割合)

基 本 方 向	◎	○	△	▲	※	9割以上達成状況	
基本方向1 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開	17	14	4	2	4	31/37	84%
基本方向2 県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出	7	2	0	1	0	9/10	90%
基本方向3 「農」の恵みによる健康で豊かな暮らしの充実	1	3	1	0	0	4/5	80%
施策全体(成果指標総数)	25	19	5	3	4	44/52	85%

評価基準：◎達成率100%以上，○達成率90～100%，△達成率80～90%，▲達成率80%未満，※未集計

成果指標（56項目）のうち、把握時点においてデータが集計できない4指標を除く、52項目の結果は、年度目標を達成「◎：100%以上」又は概ね達成「○：90%以上」している項目は44項目/52項目（85%）となっており、ビジョンの目標達成に向けておおむね順調に進んでいます。成果指標の個別の進捗については、第1章第2節に記載します。

【成果指標の評価結果】

施 策 項 目 ・ 成 果 指 標		R3 達成 状況	年度目標 達成率
基本方向1 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開			
第1 スマート化による新しい農林水産業の実現			
1	施設園芸における高度な環境制御技術の導入面積	△	87.6%
2	土地利用型作物等における主なスマート農業技術利用面積	◎	122.8%
3	畜産における主なスマート畜産技術導入経営体数	◎	203.1%
第2 多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開			
4	野菜生産量	○	95.6%
5	うち施設野菜生産量	△	83.0%
6	高温に強い水稻品種の導入面積	◎	101.6%
7	麦・大豆生産量	▲	79.6%
8	うち丹波黒大豆生産量	○	97.9%
9	生産緑地面積	○	98.2%
10	法人経営体数	○	98.9%
11	新規就農者数	△	89.3%
12	集落営農組織化集落数	○	95.2%
13	実質化された人・農地プラン策定集落数	○	95.9%
14	担い手への農地集積率	▲	78.1%
15	パイプライン化した農地面積	○	99.9%
16	環境創造型農業取組面積	○	95.3%
17	うち有機農業取組面積	△	87.6%
第3 需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化			
18	但馬牛繁殖雌牛頭数	○	97.2%
19	畜産法人経営体数	◎	104.6%
20	畜産業の新規就農者数	◎	113.3%
21	但馬ビーフ供給頭数	○	99.7%
22	うち神戸ビーフ供給頭数	◎	108.2%
23	生乳生産量	◎	102.5%
24	県認証食品(鶏卵、鶏肉、豚肉)の生産量	○	99.5%

施策項目・成果指標		R3 達成 状況	年度目標 達成率
基本方向1 基幹産業として持続的に発展する農林水産業の展開			
第4 木材利用の拡大と資源循環型林業の推進			
25	県内製材工場の製品出荷量	○	94.0%
26	木質バイオマス発電用燃料供給量	◎	115.9%
27	主伐・再造林面積	◎	110.0%
28	県内素材生産量	◎	117.1%
29	林業の新規就業者数	◎	206.7%
30	森林施業プランナー数	○	98.2%
第5 豊かな海と持続的な水産業の実現			
31	漁船漁業・海面養殖生産量	※	—
32	うち瀬戸内海	※	—
33	うち日本海	※	—
34	漁場環境改善面積	◎	102.8%
35	漁業者1人あたり漁業産出額	※	—
36	漁業の新規就業者数	○	91.1%
第6 農林水産物のブランド力強化と生産者所得の向上			
37	海外市場開拓数(品目毎の累計)	◎	101.9%
38	うち日本酒の海外市場開拓数	◎	100.0%
39	兵庫県産米の輸出量	◎	138.2%
40	神戸ビーフ輸出量	◎	192.1%
第7 食の安全を支える生産体制の確保			
41	兵庫県認証食品認証数	◎	104.3%
基本方向2 県民が安心して暮らせる活力ある地域の創出			
第8 特色を活かした活力ある地域づくりの推進			
42	野生鳥獣による農林業被害額	▲	75.1%
43	シカ肉のジビエ等利用率	◎	112.3%
44	多面的機能支払交付金の取組面積	◎	100.7%
45	中山間地域等直接支払交付金の取組面積	◎	100.1%
第9 農山漁村の防災・減災対策の推進			
46	ため池整備により安全性が向上した箇所数	○	90.2%
47	山地災害危険地区の防災工事の着手済箇所数	◎	103.3%
48	主要岸壁の耐震化、津波・高潮防災対策済漁港数	◎	100.0%
第10 豊かな森づくりの推進			
49	「新ひょうごの森づくり」整備済面積	○	98.2%
50	「災害に強い森づくり」整備済面積	◎	100.0%
51	森林病虫害被害(松枯れ)面積	◎	111.2%
基本方向3 「農」の恵みによる健康で豊かな暮らしの充実			
第11 食と「農」に親しむ楽農生活の推進			
52	楽農生活交流人口	△	80.9%
第12 「農」と多様な分野との連携強化			
53	農福連携取組件数	◎	160.0%
第13 県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進			
54	ごはん食普及啓発実践活動参加者数	○	96.3%
55	県産農林水産物を購入している人の割合	○	94.3%
56	直売所の利用者数	○	91.2%

